東櫻集

四季

911.3
ト
四季

乐

東京帝國大學圖書之印

序

書肆永四辛亥南呂

号観音櫻記

[illegible]

往昔前陸奥守（葉山左大臣）準房公遊学ノ為西国ニ補陀巌詣ニ赴キ
て国中の霊場巡礼セラレ一時ハ大悲閣（奥札所十二番）に納め給へる観
音ハ[illegible]抑當山ハ[illegible]像を彫基備ハ[illegible]の形立ハ道場ハ[illegible]海
上人の造営ニ[illegible]数多ハ霊験ハ[illegible]奥震ハ[illegible]
事ハ[illegible]中に正安の[illegible]吾高館（一名西館又常陸館ト云東鑑ニ云ヘ念西朝宗君築之所也）城主伊
達藤原政依朝臣あんち栗野蔵人大輔義鷹君ハ[illegible]に諸堂再建あ
ら[illegible]今の[illegible]称[illegible]義鷹君（因本尊霊告ヲ三観音造立ス）
安置奥院大悲ハ高館本地仏ト云傳フ　ハ法号ハ観音寺殿本明覚仏ト称[illegible]その遺跡[illegible]

ら[illegible]當寺の古き縁起ハ[illegible]
勝寺殿（浄光念西）[illegible]
立セリ[illegible]
拝[illegible]
[illegible]
[illegible]
自唱老漢一世の力ハ[illegible]
[illegible]

く法をとゝ[illegible]祐昌石窟阿師大悲閣の農[illegible]柄に[illegible]の人境際の叢崖[illegible]
[illegible]き輪奥あるもく石壁[illegible]
[illegible]石垣に[illegible]の大悲[illegible]
[illegible]おのれ祐空遊阿[illegible]
[illegible]師の[illegible]
梵宮の正面にあり[illegible]高徳の[illegible]
[illegible]め佛殿の彩[illegible]天井の蓮花は清瀬其に丹青をとつくさ[illegible]
壇の孝子感得延命の[illegible]良工にあらもるべからさる
[illegible]客室廻廊周池のめぐりにあり[illegible]
[illegible]大悲の[illegible]

子南半田村俗名善之丞ト云 [illegible]感得[illegible]安[illegible]
[illegible]東析世能寺開祖也の奥[illegible]
[illegible]の[illegible]感
[illegible]あく山家氏（ヤンベ）仙臺白石領金ヶ瀬宿古老俗名某信帯真蹟分石刻而藏當寺
[illegible]賊法[illegible]
[illegible]遺[illegible]の類ひ毛筆[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

夢に紫雲たなびきへとその側にしたまひしもあやしかりしかの
大悲のさくらをうけの光りに花開く春毎に白妙にちらさ
らし　まことにあやしくつけ奇なる花につけて出る事をさふは
不人に気色薄紫の因縁を結ふし　もとより此桜のかたちにや
いふならぬ名を今や曼陀羅のあやしき理にして　いまや中月氏
に蓮を華とし　支那に牡丹を花とし　吾皇国にはこの桜
をなんもとも称しさらに万物にすくれ愛して　その一時
栄耀の花あり　あはれに不盛なるのものあり　きたる花を称し比翼
をうたふ夢現をきし　無量の示せる迷悟の一念微笑のもとにて
まやふ出へきはるかもとにやんことなき高貴隠逸の徒までいふらん世を

さけ道よりもその姿をも見ゆるは花　かくやかに花かくはしくも
名をは此の花のうちに備るもそのかけしるよりてうるはひ大悲の御名を
見る花木の桜におきしめて歓喜の桜ちらしへ　まいるその功徳おのつから
攀の中に具りて讃称仏名の果をうるにひとしからしと書

西館山大悲閣のあるし　遊阿

嘉永二己酉弥生日

かしこみ誌之

霄の前の峰をかしてあしつゝあく
物にまよふみちとて詠

髙鮫

やふかかりかれさくらの咲るもあらく
よしのの名のかれ雲かとも見ゆ家

東櫻集四季

一名自他紀行

無礙菴遜阿編

春植物生類

むすぶかぜ　やゝとなれば　芽ぐむ市　すまひのおきて
あれを遜阿坊が宿ちかき　托しく　ひろもれ國大明神
ゆかりもたづねたいつもて

ふりくへてこゝろ花よ　旅寐かな　一具　武彦

東叡山にて

やゝあれて　ほとつきうり　花よ　鐘　、　垣　、

[illegible]　初　桜、萬頃

三たび尺て三度うつし　樣ゝ、卯月

やく来の日数をつもる花の夢、山海

[illegible]雲や苔よりおく秋らん　紀伊秋月下

[illegible]のあるひらいたる　七日　かぶ　丹嶺

不老よ尺ゝ日数ゝ　初さくら　石天　一枝

初花や咲ゝ踏ゝつきやきた　伊孫　蒙古

尺ゝ車をいひゝ　花ゝ　波路　蔣池

御坂山ゝ

退て尺ゝや古花の中ゝ　素行　米窓

鞍ゝ　ゝ　上孫　露堂

花ゝ　ゝ　三河　波文

さくゝ　ゝ　城波　清水

扶扶よ婦　ゝ　花の高、清風

挑　灯の　ゝ　出羽　秀竹

いさゝな道よ坂　花　下毛　雪翼

橋を渡る舟さうて山さくら
見てゆく流れあり　てむの高
高きの後ひとゝ咲や花の沙汰
ゆきはゝ四月尺きゝ　樓　下
紀尺　ゆきひとゝ里や新ゆ
新宮　高ゆきあれ花のゝ明
ゆ寺や新ゆきゝ　四一枚
上ゆ帰ゝ点ゝゆゝ寸島の花

常陸　大雪
、以茶
、幸丸
丹後　九兼
尾張　梅裡
白石　李冠
紀州　駝童
土佐　古梅

山城　杜鵑
摂津　歴山
仙台　杉芽
、茅堂
、武蔵　昌秀
、宋山

山ゆ　ゆ岳　山
ゆ　ゆ連　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ

鎌倉懐古

谷〳〵　ゆ　ゆ　ゆ　去　ゆ

雪の下にて

雪ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
日の数ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

[illegible]ハ咲るを[illegible]つかさ[illegible]　福寿草　[illegible]広　百翁

[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]　初[illegible]菜　信夫　[illegible]泉

買[illegible]のと白ひ[illegible]　[illegible]石　安雄

七種のをかゆ[illegible]や[illegible]　[illegible]　百[illegible]

焼して[illegible]　出羽　[illegible]人

新しき[illegible]や七草[illegible]　[illegible]　曙堂

[illegible]　武蔵　杉付

山越し[illegible]　[illegible]　素行

[illegible]　山林　杜英

[illegible]　信夫　三平

毎年の[illegible]　山林　松秀

[illegible]　[illegible]　浮水

[illegible]　出羽　龍[illegible]

[illegible]　武蔵　[illegible]舎

[illegible]　[illegible]　律太

草つ[illegible]　松井門　八重女

清水よりくへて色あり学の蘭　信夫　石年

東の森や往昔日本武尊東征の時橘妃多い[illegible]

[illegible]

若草の名もなつかしさ昔[illegible]　遜阿

牛の涎ぬぐうなとたつき思ひて

[illegible]や小梅へめけ[illegible]

[illegible]妻の[illegible]　宝田秋　無絃

[illegible]の中ハ肥たる蔵[illegible]　如垂　霍二

青雨とうくもるや長[illegible]

伸[illegible]蔵[illegible]や小樹[illegible]　仲園

葉の花や鄙出ぬけてひと咏め　保原　三巴

[illegible]の法くや柱のあ[illegible]削　岩城　芦帆

るの法や自ふもとる歌の色　秀樹

坂東[illegible]法流なり　楊小

葉乃[illegible]の横日自ふや年世帯　巧波　清嘯

[illegible]や[illegible]　[illegible]　百古

菜花や柳ちるなる宝塔哉　素交

篠ちる柳ちるつくらるる花堂　慎水

町屋やうれあけ渡る咲すまし　二十世

角屋や雨ふるたる笠の中　清二

さしてゆるやうり伸りる土筆　桂

忘草すまる咲ひく来る菜の苗　良渓

雛ひる拾ふ人中橋笠　春二

口数ふ立ちの柳下　弘湖

雨ふるして久し柳ちるる

川越る新宿つる柳下

人まれや柳ちるる清水

立ちの柳ちるや舟の人

ちるのあるひや月と淋

蓮ふ日ちる人ちる晴梅下

雪ふ杖曳ちあるる烟ちる

菜ちるるてちる家の柳

仙台　燕山
立花　秋若
淡路　今色
加賀　悠示
出羽　筆雪
保原藩　我
武蔵　月邨

うめさくや小野寺の人通り　武蔵　子枝

ちらくと梅と我野洲岩ぶ　出羽　堂路

門ちかきようもぬくとし梅花　岩城　振衣

雪ちらちら梅屋敷の噂さ　出羽　東六

紅日寸前白しや沈乃梅　安九

青やぎやうり解きて梅の花　立蓋

掛角のつつまいやうもれむ　雪舟　幻可

折くの新を追ふ梅の月　掛川　林曹

野の梅や初手来人れ行たりめく　常陸　呉石

山桜や梅のさうを見やきめ　信州　涼峰

うめうもれて来てやなりの火　美作　秀詩

野ま山ま梅の下ふ乙ふ　石巻　琴優

四十ゝ年ゝはくし松の花　盛岡　建山

雪の梅や陰くゝの松ゝ形　雪舟　うもと

前つゝさ梅の乃ゝもゝ花ゝ　出羽　双甫

[illegible]て一日あるさ清き秋の夕
夜つゆ[illegible]盥る桂の影　伊勢　淇石
多[illegible]なくらしてもゆて橋木の　仙台　英國
やつる田さる練立なかす寸つさ稚葉　武蔵　拙涼
伸めけさ枝ちるき木の葉ゆ　会津　四雲
山吹や咲てる張い解寸ゆる　立花　秀聲
山ゆさや[illegible]水立れるくさ　出羽　丘雨
田の水ゆ[illegible]る雁つしゆ　梁川　白廉
　　仙台　[illegible]山

[illegible]て深山めの世ゆ蹴躍る鹿　松山　雪路
[illegible]
[illegible]れや田ゆ[illegible]出る毎ゆ　協釜沢　任阿
[illegible]ゆ[illegible]門田菜　梁川　菜丈
柄杓や[illegible]いな山の[illegible]　出羽　一素
[illegible]水ゆ清ゆ種　常陸　友鳴
苗代や[illegible]直しゆ　立花　安長
[illegible]空のくもりやすの花　仙台　[illegible]高

野並とまつ迄しるや梨の花　京田　二弧

京師にあるとき

海棠や雨ふりとある車よせ　一興

かいとうやうとへとつるく扇　庶

桃さくや時雨はさるる垣のうち　武蔵　蜀橋

うく里や白もつ桃の夕ぼり　伏見　磯笑

うく咲て雨の染橋ぬるうは李　京ノ　岳信

夏ぬり時ぬれあやふしの花　志ノ　維嶽

かるまあるとき蒙淡啖ふ蒙れ茶　住吉　一聚

緑くやのをけハ流のをうう　千山

蛍ぬ廣ふ池乃ふ輪ふ那　山城　未明

黄ふやひと谷ぬうう一ぬ方く　東篇

うくひをや川ふあけふ小芙原　福島　一英

鶯や鳴出をまての枝うぬう　美濃　小崖

ぬく流すの流ふあうう生をうう　出羽　如心

黄ふや梅ぬうう下ぬ蝶いく　和州　而先

夢や夜のこうある松は中　仙台　雨休

うくひすやとて鳴て松の落葉　小倉　露子

黄鳥や近く里居て鶯乃　月数　里九

宮の内に鶯やいとまあるとて遠く来す　武蔵　雪耕

夢や寒くめてのこの窓少なう　左京亮　閑

うくいすやきく時きぬ山の形　宗因　金九

黄鶯の強く木の芽や彩れ月　松江　稲雲

うくいすや松はうの繁る日の雪　信濃　青牛

鶯の夢いとうあ山の夢くうう　保本　久雄

鶯の鳴て雪のくせしる聖鳴なる　長崎　雪白

きくこえ春の月はすきまや鶯の鶯　長崎　秀郎

何響く鶯の千深の響きまくく　上毛　竹烟

鶯の鶯あるしの向てこうこう　下総　山恒

春の夢のうの日はうまなう鶯の春　上野　池苑

坂かうう春来るうや鶯の響　上野　耕川

夢春て鶯の春や山うの　上野　之湖

夕雲のうゝ[illegible]て[illegible]

伊達崎　呂秀

ある人の歌ゝ

雲上より鶯なき[illegible]

伊勢　紫人

うまうゝる[illegible]

枯芝や[illegible]

武蔵　蓬交

つゝゝゝや世ゝゝ[illegible]

越後　[illegible]

[illegible]

常陸　盛

[illegible]

[illegible]

越後　麻三

[illegible]

[illegible]

越後　越雪

二度とあふ[illegible]

[illegible]　寸長

[illegible]

[illegible]川　素為

[illegible]

[illegible]　[illegible]泉

[illegible]

[illegible]　正令

[illegible]

[illegible]　梅枝女

[illegible]

[illegible]　大橋

おとなけの声や川とすてふの群　白鷺

蟬飛や水を枝さして人も居す　松園

鳴さまい背の雨うるうる茶　魚楽

何うる夜をうるる小家をなく蛙　好静

刈頭の袖をとるすや飛かうる　砂山

山陰を響のふるる蛙可那　鬼篁

水口うすむさ苔ある田刈小　彩好

正月四日京厳山にて

日のさや穀うるる彩すうるる帰　一具

葩黄乃こ不生一枯芝の上　遥阿

揚うる風ふ考うるるる　〃

うるる結床のこみあるうる　具

めりうるると十五夜るの孔うるる

雨をうれる温樓乃嗅サ　珂

さや菊のまほまてもの軒ちう

山伏道ちう立いりてさまる

雪をつけてさうて置ち屏風

具

京合ほうちうせりてさ

掃除口あるかきの巴は猪熊

何ほうもやちうかて京

具

秋ちうや洗濯もの庭つるく

尺あるちうを誘ひ出さ月

具

張ちうさけて仮屋の早う乾

大きうと粧悟さ市光

具

ちうくなるかう高る森の花

菜ちまま一まふ青麦出来

具

庭を粧な傳蔵家おりの有り

具

日あ一ちうあて鍼禁世京

来ちうはちうかさ寸貸本屋

具

菓の義は何時なりとも故ちまち
出持つて帰り申さそう
検地帳のくことは引はき
年寄り共に俳号を出す
拾くと結を集め海月とる
紙子屋を入てさくやく
何変とも美味を賞美の月
のくるあつさ蝙蝠はかふ

具
〃
何
〃
具
〃
何
〃

餞別の不何はき河原町
具
頭巾上く百士の志度
〃
さくくと学問めくきつむち風
何
最潮うけ花のふくこと
〃
面影忘られてちる寸音加帳
具
ちきくはをある雀る
〃

一具

遠阿　名十八

歳旦乾坤時令

年間立春元旦

[illegible] 武蔵 由誓

元日や[illegible]の人[illegible]

湖山

元日や[illegible]

護民 志摩

元日や[illegible]

指月

[illegible] 武蔵 詠久

[illegible] 松濤

[illegible] 信濃 岑女

[illegible] 松竹 小鯛

元日や[illegible]

出雲 赤鄕

[illegible]

[illegible]

[illegible] 東伯 五葉

[illegible]

[illegible] 三河 蓮芳

[illegible]

[illegible] 武蔵 幻亜

[illegible]

[illegible] 紀伊秋 閑形

[illegible]

たつ鶴やしらぬ方の嬉しき寸法　二本松　菜也

天の戸の開し心は今二尺の越年なるへし

おもしろし不二と初日を二見浦　伊勢　雅琴

遠浅くに来る汐や日のはしめ　駿河　子行

初東風やさそひのしるき如望の暮　下総　立宇

東風ふくや野山もうつる鏡心　武蔵　松室

水清めて今年や東風の吹はしめ　出羽　一羽

物みなは春立今日の始かな　月峰

松の色も春を立けり神路山　伊勢　恵雨

たなかゐや世は猿りしき人通り　二本松　麒蝶

のふの春ふきさらさく矢のさそりかな　瑞山

家々の鶴まよひ越さ行し年木かな　阿波　案藤

東都の名を染て鏡もちは搗月末は八日なりけり　也明

みの笠は家れきりや千代の春

黒鉾や雪とてある浮代は春

鶴たちしく扇や昔をかしめ　武蔵　清見

門葉に雖ども俳諧の名
梅こそ霞屋こそ龍の名
涼を求て水に休む車かな
太祇や去られる人の名せこそ
蓮葉の中に咲やふくこそ
咲つれて月の出や釜の沸る音
旅人の家の内の外こそ雑炊こそ
ひとしきり時雨こそ過

出羽 文哉
〃 閑林
摂津 其山
武蔵 五渡
伊賀 袁瓜
陸奥 岱元
筑前 徳石
上総 美里

十こせあきこを過て高きこそ
四つこそ空こそ雲や雑炊
こそこの坐を退てこそ小酒
年経さこそ合こや仕立舟
うこそ門口こそ礼こそ
手襷や表へこそ俳諧
梅探こそ雲の序こそ
茶こや茶こそ眉こそ

尾張 吾川
土佐 嵐夕
丹波 竹葉
出羽 大井
武蔵 秀巌
上総 素山
山城 袁瓜

万葉や二荒山の町　仁文　千頭
ねつもや宮紙明るを枕もと　日向　貌岳
大こうこう上戸ぞうりうらの初　出羽　雲山
巻頭のの元こうこう弦末ゝ　丹後　月樵
こゝ物ゝけ春やこゝ嬢の内　山城　芳舟
あゝゝゝ年男みる訪ゝゝ　武蔵　菩九
物ゝへてこゝゝ雪や松のゝ　吸月
こゝりこゝ人ゝ行あゝの日ゝな　茅古

ゝ俗ゝ杜氏なゝゝ義ゝ記　多吟
ゝ長ゝ川元こゝて山の裾　ゝの菊
正月や二十日ゝゝ宮ゝゝ　大和　可樵
顔なゝゝのゝゝゝ雪ゝ新　出羽　二象
嬢ゝゝや一村ゝゝ紅のすみ　松江　赤屋
ゝゝゝ場のゝゝゝゝ雪ゝ　加賀　素玉
ゝゝつゝゝ木ゝ雪ゝ小ゝゝな　武蔵　抱叙
こゝゝゝ雨のゝゝゝ　山城　蹴沈

咲実やふんだあとからけふも土　呂風
うけれふの徳よそゝる樹落ぐ　花友女
陽炎や眠けなくなれば春の子　浦谷　野菱
月はなり蝶てはかり湖の上　武蔵　鶯和
それなり来しまの野分やおぼろ月　、山子
松影に木江をふむ月の蝶ゝ哉　白石　蘇谷
手がらにやうなる稲はありまた月　同　防風何
鶯しく鳴しみ春の声　会津　茶一

送り行てくる人ありまぎれ月　吉田　竹契
燗のあとのたゞよひ迄をとの中さて　阿波　涼枝
来まではまだ降いれや初雪　、　葉梁
雨の夜をまちてきまぎれ油よ　野辺地　釣之
旅人はあし跡しめくはなの雪　寿女
部やゝなきみ泥るれてまた紅　福島　麦家
紫垣かきかはの粉雪が溢りさし　山林　丈翠
淡雪や根になりて道のちあるかな　浦谷　弓駿

出羽 素英　四時
筑前 八雲
武蔵 峰雪
長州 白知
下野 青竹
和泉 宣頂
陸奥 雪雨

仙台 布三
播磨 可大
[illegible] 里水
出羽 月松
四条流 一毛
武蔵 言山
福島 柴湖
[illegible] 杜水

[illegible]の水　上野　旭川

踏て[illegible]の根[illegible]　武蔵　茅里

休[illegible]　出羽　渓迫

詠[illegible]や妻　紀州　眉山

[illegible]の壁や[illegible]人　[illegible]水

旅人[illegible]　伊達侯　芳谷

桑の[illegible]　筑前　[illegible]

金沢夜泊

[illegible]夜の一つを知る泊り[illegible]　武蔵　祖白

[illegible]の歌や物[illegible]屋の嵐の[illegible]　子安浦　文雅

[illegible]いて[illegible]日[illegible]　仙台　[illegible]女

時の[illegible]日永や形見の原　出羽　一意

[illegible]の中[illegible]　子安浦　邦彦

[illegible]入や[illegible]　武蔵　眉岳

[illegible]入の[illegible]の[illegible]　[illegible]　甘古

出[illegible]や[illegible]　岩谷堂　休堂

芳野の花見に旅立一具叟と蒲田の菜庵迄見おくりて

海苔の香に似たる所迄の杖の跡　山城 蒼々

のり干あたりなか空を日和白ひ　越中 夢里

ひとしかや関屋の裏の蜆汁　阿波 鳳楼

浴蕗酒のいなかは寸分たまはり　紫山

入まじり知らぬ人にも雛合　相模 分字

雛棚の明りうつるや小酒盞　武蔵 山方

只居ても雛にうつしてやられけれ　出羽 孝丘

眼さましに菜の花させて雛の宿　丘来 桃花

雛の君も我れいなかにも睦まじき　錦糸女

菜の花の色をつまする野山かれ　阿波 應史

走りぬいて遠み汐干狩　仙台 智幽

梵きし火のふとひやつなむしに乾かす　周防 渕雪

植の芽を出すにはうけて蕗の妻　中田 珊丘

浴の師は人につき出て梅が東都の社堅子別をささえて

明るさ春は名残を上野すみだ川

烏賊麦の麦を中高に蒔かれ

中く麦や蒔くとて小形に蒔

きて麦の芽の揃はるより

秋野うら高原月和や弥生尾

月花の中に秋と雪よりう

土浦深市にて

新宮さつまおろし中弥生尾

武蔵 浦く

上野 草笛

梁川 蒔恵

六崖

武蔵 秋蘆

夏生類植物

辻風や遠く来たれば雨き寸

耳うの中に蛙の鳴く時分

家て寝と人を初うる規

たなびきうら寄もうく置魂

て来る際の方角や不如帰

うの宮を過来し杜宇

井戸水に冷来うる時分

山城 梅室

武蔵 新好

武蔵 尾村

丈 規

丈 魂

丈 三

丈 卓白

丈 桃支

岩城 尾橋

[illegible]　白石　鬼雲

時[illegible]河岸の[illegible]　信夫　素堂

[illegible]　郭　公　上総国　澤華

[illegible]　杜　宇　[illegible]　河

遠[illegible]　[illegible]　千喬

[illegible]　[illegible]　出羽　瑞山

[illegible]　杜鵑　一具

渡の波まく

[illegible]　伊勢　珍翁

[illegible]　二本松　菓安

沖あけ[illegible]　浦出　魯周

木の中[illegible]　下元　文窓

[illegible]　武蔵　千瑞

嘆[illegible]　[illegible]　梅二

再び越後へ

[illegible]　上元　木公

[illegible]　二国山

庭樹こゝろ雪物川の舟この形
[illegible]なりや火串ふるき庭の苔
生蛙ふるきこゝろ悔き蒙ふる茶
ふるかりや嶋根こゝろ組子所
子子の海こゝへ子ありこゝろ
禅なくや子こゝ蒙州こゝ俊てわ
遠のけふ時こゝ蒙こゝ赤ふる禅
蒙こゝ月のこゝ仕こゝ退こゝ寸枝 蛙

[illegible]村 蓮月
出羽 御領
城石 影湖
蒙山
石巻 石芝
上毛 [illegible]
言子 梅月
[illegible] [illegible]

九[illegible] [illegible]
出羽 羽東
[illegible] 休湖
城石 東外
互理 梅東

新潟

松の灯ふるこゝ[illegible]や火取出
ふるこゝ[illegible]遠入[illegible]こゝ[illegible]

[illegible] 阜雄
下総 江月

茶の花や坂迄きまふて降小ぶり　佐渡 文仙

木作りのやりつけふや庭れおく　加賀 卓丈

出て行蚊見えてひとり鏡かな　武蔵 大眠

霧かすむ流す月の出るまでばかり　出羽 蒼二

常阿弥藤若か記さ行て
いたづら眠鏡見やうらん

登りつゝかさや桃も山として

のこれ花めをとりてなよし作の笑　出羽 素山

渡し場へ来て指すなりぬ笠の梢　排内 桃落

肘たけの極穴ぶるや畑烟　釣好

ちすなて持あきさりり初茄子　備中 勇雨

素人ふた似ぬつやの行る菖菜かな　出羽 峰朗

柚の花や今掛えし垣の上　山城 五呂

繁さるやこゝろやさけて吹かへす　苔今

物いへば樹子樹して若繁る　長門 峯丸

菜ふ日和もとりて黒きる菜かな　下毛 嵐扇

立傳く抱酒を今新樹哉　安芸 霍菜

遠近てらす門の形樹の形　保示　屋樓
酒のうまさ　土佐　元史
茶樹　茶樹　筑前　汁丈
さいとせきいかも　茶樹
時雨つくるかけりやまのかへる　安達　楽只
菩提樹　玖珠　乙良
菜たね　東山　朱海
菊　福島　垂樹

苔菜や一段たかく島さびし　小野　千樂
雲うすくて雲いまさぬとおもひ出て
卯の花をまぶす山の雪ぬこの形　山城　石外
うぶ茶やとうふ喰て橋ぬる　下毛　雪由
卯のはや四五日もうる船の冷　月船　山甫
市の花あるうる料理の匂ひ　武蔵　以肅
海士の子の船をもの見て乃の花　山城　桜函
風あるまいりの雲ぬ　葵　可孝

梅子や雨まて通し日よけまて　十二才 銀之助

埴らしく志めりかゝり昔の花　十歳浦 一羊

南天の花なかさ近ありし軒の雨　十才 大阿

柿のさかりやすむ竈まもり　須加川 清民

日おれある蕎麦のいきれや栗の花　和好

椀洗ふかうて青柿の花桜　九才 蓀竹

日向雨も油やかすむさくら　竹後 類甫

墁塗まだかわく水や桐の花　三春 齋栄

楠公碑前

常磐木は時ありてもるゝ日よりかな　尾張 蓬陽

細り涌る清水さし交木立　栗川 竹塢

竹の月もまゝ時さら蕨子花　六岡

飛く井戸の水やかきつはた　排田 梅塔

深くより咲初めけり杜若　武蔵 奈ゝ

咲流れてつゝれしせり蕨子花　仙台 一止

往来まれなり欄端のあやめかな　下毛 大城

蕾さきそめし日和なれば　北洋（磐石）
さらふ波や雪うちそそぐ池の面　山形（武蔵）
菊のさかりてあるべき所　白川（十二文）
出はしめやまぬ休のうれしさ　対月
杭瀬の休はるのきぬ　越後（結城）
休橋ちよきをうたふ百のおと　麦文
世をさきにうれ竹日毎ふるあらし　菊也（二本松）
温泉に通ふ橋もあるなれば　季郷（会津）
川こゆるを天竜ふけりうの声　文河（八戸）
旅人の色ひろ市の賑りこの雨　甲斐（武蔵）
ひろ水のうるおひ　剛吉
常陸佐竹寺に詣つ（立太田駅西注古封君旅宿道場也下ニ）
日ぐれ蓼のちりけぐ　光　桜　雪
人顔ぬれぬ雨ふる梅ふのうち　柳志（下総）
姫やふぬきりめる田植うれ　素年（大河原）
年乙女ちりはかりて野ぐ日り　兼女

[illegible]の[illegible]に[illegible]田草に
川音に[illegible]の[illegible]に水に田を
久[illegible]に[illegible]に[illegible]に[illegible]
田に新に[illegible]に雨に[illegible]の雲
[illegible]に[illegible]に[illegible]に[illegible]の[illegible]に
[illegible]に[illegible]に[illegible]に[illegible]に[illegible]に[illegible]
白蓮に[illegible]に[illegible]に[illegible]に[illegible]に
雨の蓮に[illegible]に[illegible]に[illegible]に[illegible]

[illegible]牛
[illegible]紫英
[illegible]彭虫
[illegible]蓼丈
[illegible]春
[illegible]塚布
[illegible]東里
[illegible]

[illegible]に[illegible]に[illegible]に田麦に[illegible]に[illegible]に
麦に[illegible]に[illegible]に[illegible]に[illegible]に[illegible]に
麥刈て[illegible]に田[illegible]に[illegible]に[illegible]に
日中に[illegible]に[illegible]に[illegible]て麦に秋

夏乾坤時令

[illegible]に[illegible]に[illegible]に四月に[illegible]に
[illegible]に[illegible]に[illegible]に[illegible]に四に[illegible]に
草に[illegible]に[illegible]に[illegible]に四月に[illegible]に

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]の日さしのめや文　衣　一具

大原女れ[illegible]　[illegible]　山城　九起

初蓮を門よりあてはせ　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　東海道　斗飲

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　城州　栗山

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　出羽　二丘

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　尾張　鳥津

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　武蔵　桐古

[illegible]の雨[illegible]　水戸　上

[illegible]の[illegible]　上総　柳塘

鳥山道中

澤瀉[illegible]　[illegible]　[illegible]　雨

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　伊勢　石影

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　保原　巴山

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　信濃　文叔

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　山城　旭洲

夕たちの時ゆきのぬくもり　乗
田の方へあ〳〵むきてみる雪霧
暑日や　烟のうゝ　漆の木
ひのつきぬるまでもゆ　涼哉
涼茶子の花ひらくゝ　暑つゝ
楽田　暑ゝ　楽ゝ　暑ゝ
〳〵　暑ゝ　暑ゝ　楽
暑日　雲　むかし　奈須の嶽

出羽　川文
、　宋一
、　蕉九
少庵成田　稗松
松前　陽山
武蔵　普ゝ
、　花ゝ
上総佐倉　露丙

松の戸　土用　ちゝ　匂ひ　形
つゝあゝ　暑て　戸　土用　干
照ぬいて　仏　金　土用　車
ゝゝゝ　汗　ひや　松の　枝

李白　蕉ゝ
伊勢　雪嶋
武蔵　大鵬

常陸霞ヶ浦

舟　ゝに　ゝゝ　浦　秋　芦
塁　ゝ　ゝ　ゝ　美　ゝ
出　ゝ　ゝ　網　涼　ゝ　風　来

武蔵　芳好
上総　葉義

石山寺の門前にて

暮坐敷 湖水を見やりて

武蔵 一具

飯盛井にて 懐古

安達 和田

山里に古風のうつて紙の侘び

筑紫 少弟

勝景を面に出して幟うち

出羽 渭水

菜畑や板戸ばかり人のうけ

三河 遠山

踏うけて高りやうの園扇かな

梁川 波琴

橋立の月をめでたうふかく

嬉子 波文

旅寝の人々ゆかしうされ

白川 稲風

天文を語る扇かな

出羽 如竹

山根来て人の目ぬきの日中茶

那山 謙之

踏くだく壁ぬかるみ懸の来る

三河 柏二

日光にて得花

前山の月をひかるる妙情かな

武蔵 夷則

初工合をきめる懸行あるる

信濃 柳蓮

古茶の味ひをうるる好みかな

武蔵 魯心

雨ふらぬ夜なかにきこゆ郁の壁　去來

桜てまえもちくや郷のまつる酒　中分

星ちりきて露ふき顔秋もち　楓下

葛水や花柳のみぐり利かりく　素成

門掃く手や影のりり夏給山　左逸

川は雨もうくて降の春　嵐　虚吹

あきくと淡瀬のまやまかりし　青僊

木賞の宿にこぬきてあらし　嵐　舟居

鹿嶋神社

露の毛にちりあふき清水かな

舞ふ象の見してあらしこつるか　越后　文理

背戸庭に杉はむきの清水かな　重江

篭の汁は砂れあつまりしの秋　、太明

目下に刈萱おくや野の清水　南部　川寸

名月や草木はまた川の夕　信州　多よ女

秋を待こゝろ草木に先こえ労　阿波　霞泉

秋乾坤時令

名月や海をあらしの崎　尾張　而后

明月やうきて人きる魚の中　伊勢　天風

めぐりあはせうきの夜の船上り　武蔵　水壺

名月や硯に掬ふ余吾の海　あき　乃川

明月や面影のあく海の色　仙台　祐因

名月や照るきてたちて根ふ雲　出羽　朶峰

明月や遠目かすかに城の松　秋　一草

明月や繁りに残る関屋　白川　麦紗子

海ちかく出る月の重なり　武蔵　白起

時うつる月を待つ宮のうち　あき　丁雨

月を賞江のうへ宮の燈の色　武蔵　四山子

海出して月待宮なし今日のうち　上野　美月

余所よりの四方の月を無の月　三河　湛水

連ふ中遠て月待出し海の中

晴遠て月さやかなる 詠る歌

待宵や雲ふむ道のあさぼらけ　曲阜

雲さへぬ出すむ影や十六夜　光林

十六夜や塚塚の忘つまる軒の雫　日野氏

濡てけてうるさきまでの秋の月　卓雲

出るうるや人顔てうる雲のうら　三河　塞子

うへの山のうしろ月を出つき　伊勢　壺巷

月のさまを出て移門や初うら秋　沼津　尾松

也明

江嶋見渡なる月の金沙八景を眺む道中

ふやうく根の葉ゝ山や六日月

眺ゝる浅芽の雨や后の月

百年の残て月も名残の事　菜女

夕月や物ゝつゝる漁師町　石丸

ふゝうく山色雲吹ちる雲の上　田辺　雲方

清あさの来てあるゝゝ旅心　鳥谷　雲石

秋立や影めゝすき竈まうり　松眠　仙始

秋ハ人の心ふかく西ゝ江　武蔵　尺分
きつ秋や一ふく茶一ぬ碧　三河　石亦
白蓮のいよ〳〵ふかきの秋　武蔵　抱儀
来て来て来て懸のおとゝ彩の嫁　孔雀　青年
まゝ嫁の津ゆ〳〵ゝゝ如是〳〵　乙橋
ふく秋は眠まゝやふて粥素菜　武蔵　丁出
寺うけて手ぬきく閑や星恋　、　梅ゆ

不忠池

一ゝ〳〵ゝ蓮の葉ゝや星ゝ育　一具
ふ蓮や大ゝゝなれ〳〵て貸小袖　西弓
波いゝて沒まつゝふゝ眠この形　尋香
桃の葉ゝ如ひあゝ葉や部髪
橋ゝゝ空ゝゝゝて天社川　山塊　陵良
扶ゝゝけ如人ゝまりて銀河　茶坡　一甫
波葉ゝ来て尺上ゝや工ゝ社川　仙亭　金用
いゝまゝ眠を閑ゝ度ゝゝゝ　月弦　山甫

稲つまやこけて蔦こる屋根尾　月波　栗園

白雲の中ようすくとりて　三秀　赤安

霧白や垣根さらぬく小提灯　仙台釈心　阿

新蕎麦や芋ぬもやるうもと　出羽　岩月

浅間山

雲霧ようおしへさく煙ようが　武蔵　月村

今しさ塚の尺ようう初巻　仙台　宗古

花火さむあとや長引柳の酒　新好

廓中

月もあき燈籠ようが多さうな　武蔵　沾菊

鐘ようや角力くつまて山は月　伊豆　菊人

寒やみしあるこるる角力ようが　丁孝

供ようして出不たさほさまひ小　武蔵　祖仙

ようさやうう何ようが花の蔵やうう年　丶　由誓

藪うけの小家ようが雪ようが和ようう　石人　柳園

雪ものしして後二ろ十日の夜　仁井田　薔紫

[illegible]の名のあり[illegible]や田面の日
[illegible]
[illegible]
日[illegible]
[illegible]
物さう[illegible]
大[illegible]
[illegible]

[illegible] 赤蜻蛉
[illegible] 貫之
出好 洗之
[illegible] 雨
[illegible] 焼石
杏園
出好 蟬丸
保不 好文

[illegible]
夜は入て[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

武蔵 [illegible]
筒女
[illegible]代女
[illegible] 玉[illegible]
[illegible] 六和
一笑
尾張 碎石

[illegible]

仲秋海景　不破羅　武蔵　一具

曉起

雲やけよ妙義も秋の色ふかし　保原　知道

湖のふかさに秋の竜田姫　陸奥　李谷

あさの山雲と霧とを隔てけり　尾張　庭竹

白雲の星らしくて秋の海　東筠

名月や面影なれを称ぶ鶴　在来折　楠齋

蛙の声人をひろうて年酒　武蔵　梅谷

提て来る月の門たち秋風　常陸　大系

秋もまつ野蓼麦の地走かな　武蔵　遠岡

生てうつるや蛍の影の秋風　尾張　李曉

秋風や竹にまつわる月の光　武蔵　吸月

あさぎぬや蝶吹つけし柱柱

蓮池のあるいなかなる秋の雨　在南

紫の色に染つくしてやあるの風

明石夜泊　出羽　菅雪

明石の夜泊　摂津　史山

秋の雨　武蔵　可枝

秋の雨　尾張　一清

秋の雨　出羽　京阜

秋の雨　芳香

道遠とまちて越す関やあきの暮　信州　湖草

秋や軒　出羽　実文

秋の月　出羽　嘉丘

行秋や大木原の裾　尾張　金樵

りあきや深山の梢の紅葉　武蔵　西甫

道鏡墳　在宇佐宮西續紀曰天皇崩後放野州為薬師寺別當死以庶人葬之云々

神代より荊棘のあさや春時雨

信濃國善光寺にまふでて弥陀の尊像を拝し奉るかたじけなさの余り感涙袂をうるほしつゝ折句をつゞりて寸志の情を仏前に備ひ奉りぬ

あ　み　た　ふ　川 [illegible]

阿　弥　多　奴　つ [illegible]

安　三　堂　婦　津 [illegible]

あ　美　堂　ふ　川 [illegible]

阿　み　多　奴　つ [illegible]

元文一乙辰歳月三十日

奥陽仙府住　渡邉氏長賢

此詠歌者有所縁予秘蔵久為報仏恩挙焉結縁而耳

秋氣形植物

武蔵　庭理女

筑後　赤解

加賀　柳孟

武蔵　為山

安芸　兒川

武蔵　鶴仙

京都　南江

出羽　月徳

淡路　休園

歴山

伯耆　兎毛

白石　山彦

出羽　竟栗

まろや山まくらぬしうちわ哉　松前 汶上

朱垣の夏ふかくもりや峰の旅　信州 一峯

豆州翁仙山の梺にて
熱海湯代の名有り土俗此山峻嶮
さゝ日峰琴嫌なる由人々の名付ともいへん

細屋に来て涼しき跡あり葛の簾　福島 西美

ゆふかりや照らす日はかなし

垣の虫迄のちゝろやあさぎ蝶　三春 松橋

秋の坂や峡さしかけて萩のかく　仙台 壇示

明や稲葉のあとはかなし　出羽 晴河

今は焚紫汲む寸も引くりけり　伯耆 杜陵

咲かゝる見へる稲毎や穂蝉　武蔵 遅流

蟬やちらく竹ハ客居越ゝこつる

さむしろや唖蝉の声は来る　巨鈴

居続りても古父のうけや鳴くらん　越後 松哺

むしなしや瀬ぬきしハ夜の涼　米篤

虫廊や居り中り集る蚊の絵　南部 南渓

命のむさ待合やむしの声　尾張 思文

武陵宮中

すまもりやあるとみつけ行水戸の奥　　青山
湖のうらうあるる櫻や咲て　　仙重
うの花に月はあるとも　　禾月
もりけるゆ年水あるへす舟　　雪舟　菜郷
さしの舟うるへ家つうう流通うう　　光信　うつあ
まるうあるやまるる桐のひるるる　　旭
家ううるる家るる一菜やあるうう　　信登　魯内

笠うしいひろき河原やちる柳　　一保
筆うう扇のうへやちる柳　　出羽　時雨
白木槿ちるあ年城は通う　　仙重　春兄
物うへ参ひなきうの木槿　　古耕
菜の家うくつううう　　南部　呂月

蒲萄嶺　出羽堺長氣峠北方五二里許程

山いううひうく越えぬ　　仙州　陵春
前城の文ひうう行く行菜うう　　能州　清月

ひよりなき日和あり柿もみち　土佐　半水

頭通しきうつし紅葉や鳴滝の口　山城　紫魚

辻〳〵の木の実続なる都かな　伏見　梅舟

柿ひろふ木末しきりに拾ひけり　岩城　木之

いろ葉や落るまつ音の木の露　石羊

秋ちかや舟まつしきて雁立　紀行

葉鶏や志ほめる人みゆる雲の花　素洗

あきの都におもしろき遠き庵の滝　文鵬

秋日や人としまく〳〵落ちなんて　尾張　月庵

河さこの水やもろくとの性なる　素堂

その色秋露まろくや花桔梗　杣内　柏青

賜立津西秋堂

松の秋け冬時の風もつ枯柳哉

似こ草もなくてまき迷す女郎花　白石　呉坡

夕かけやゐまりよさえへし　武藏　久米め

滿秋葉色もなし　森禱　蕙水

[illegible]尾花の出きるころや橋の上　必好　緑陰

[illegible]　[illegible]　秀村

[illegible]　[illegible]　玉肌

[illegible]　[illegible]　伏見　渓谷

[illegible]　[illegible]　仙香　妙雪

[illegible]　[illegible]　信女　保原新　古素

[illegible]　[illegible]　山陰　梅通

[illegible]　[illegible]　必好　玻山

[illegible]　[illegible]　雪月　北杜

[illegible]　[illegible]　萩の花

[illegible]　[illegible]　萩の上[illegible]迷て[illegible]萩

人の来てさまさま萩のさうしい

沖[illegible]つまさこそや萩の[illegible]

[illegible]たの[illegible]けつ[illegible]芒[illegible]

祖義の言葉をあれ出す

機もうつ[illegible]世や吾　木香　一具

伏せきよ[illegible]橋の[illegible]

おく除う筆の高してすゝ九さけ　出羽　母来

蔓珠紗菜咲ほいかゝめやうゝゝく　加賀　兎孫子

ゝゝ日の月ゝゝゝゝゝゝゝ　山城　曲河

ゝ水ゝゝゝ

新夕れ月ゝみゝ出て草れゝ　武蔵　南枝

凡球ゝゝ人ゝゝきつゝ久紳のむ　枝玉

ゝゝゝ日の移ゝなゝ花ゝゝゝ　出羽　芦葵

ゝ傳ゝ乃ゝゝゝゝゝゝゝ野れ　三巴

出ゝゝゝ法ゝゝゝ引ゝ里ゝの李　筑前　白雪

遥ゝ寸小笠れゝゝゝゝ葉れ　出雲　尺山

あてゝゝゝ若葉のゝゝゝ葉　畑　上野　楼二

葉ゝゝゝつゝゝ此のゝゝ向ゝ　筑後　九室

夕葉の林ゝゝ葉ゝゝゝゝ　出羽　一の保

大稀れゝゝ出ゝゝゝの蓋　武蔵　葉義

宗の花ゝゝゝゝ咲く葉れむ　甲斐　秀裡

ゝゝの紙ゝゝ出来てきゝの花

[illegible]月に菊ひとえに [illegible]　畑

[illegible]の花　摂津　[illegible]

[illegible]の[illegible]　武蔵　[illegible]

[illegible]畑や[illegible]の中の蕃　林

[illegible]　[illegible]　琴高

[illegible]　[illegible]　和友

[illegible]の[illegible]　[illegible]　[illegible]民

[illegible]に[illegible]の[illegible]　越後　玉[illegible]

[illegible]の[illegible]の[illegible]人も来[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]畑

追補混雑

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]

冬乾坤時令

初雪や苔のうへなる石の上　鶴古　鵬山

うつむきや枯枝のうち茅うつる　岩二

吹荒る雪を見すかす月夜かな　加賀　賀水

寒けのゆるして出来たる仏かな　紀州　南田

雪積や言うゆゆしき人の夢　信州　逸秋

笠うりて天満ふまうる雪の原　立志　蕉山

初月　子賀園

海府雪海苔　小雪の節を後とすかく雪のうち称あり　越の海府は小海北濤濤吾松島に次ぐ景と云ん

むらむらと紅の雪うつる海苔の味

碎きめをうりまわる雪人の声　加賀　大夢

ひらひらはかまうつる雪やの道　出羽　石九

なてつくや明るき雪ふさぎ通る　湖竹

角くの家て明るき雪ひ　仙重　涼苔

雪あううつる　仙重　梅雪

雪ちる中の高　筆岡　霧雄

雨ふりけるやゆく嵐や雪ふる道　武田　抱村

庚申山　壁面に河内郡日光男神山の背面を立怪岩石橋立ちの絶壁にて和山八景を中に

日光にて其之様ひらくや雪壁原

天之八重の日のちらくや雪ふる

寒砂や内海ちらす和田　常陸　花向

日ぬと我舟をあらそふ和田　橋戸　必山

箭なる浦の舟の夕時雨　上総　魚浦

伏義ふくや箭の舟寺ふる

山城　芳英

海出ちる栗林あるの時雨　三重　南雀

一一ふくや海のうけ面る数の家　千賀浦　波月

明るや時雨の星ふる　南角

志ぐれや小舟つきて遠鐘　出羽　好生

身ふかるる海ふる　武蔵　梅笠

元石や霧ふる夕立の天　安芸　泉子

京年まうる法号尾詩社新ふるさとやまち

蒲山ふるあるの

[illegible]

起[illegible]

松[illegible]の板小[illegible]や [illegible]

星[illegible]

遠[illegible]

十月や[illegible]の松年月のふる

雄[illegible]

の[illegible]

神[illegible]

[illegible]

[illegible]

日暮れぬ雲さのゝとる小春哉　川又　一牛

風ふく波くなりけり海の水　丹波　波回

木ゝゝしやさゝ雲なり月の影　出羽　不衰

さゝらしふ強くと天をハつる　歌　左素

風やみて遠出し　松のうへ　橋津　雅仲

雲月や月なき言の葉おろし

東くゝと河岸くゝ雲の日御ぶ　三条　芳村

鶯なきを出しのつもりて春　谷地　素琳

堀ひくをや「海くゝ」待ゝ　堀　〃

海とゝて面とゝ松のむつゝ　好甫

起くゝや夫桶ゝて夜なゝ　筑後　西畴

ゝゝゝて撮ゝ迄ゝ炭俵　山城　岳翁

三日月や河岸の岸の迄ゝけ　丹後　湧滝

雲なくゝゝの跡を橋をゝ　摂津　春波

湯ゝな船をゝひくゝゝ矢乗　小倉　木文

稽古てゝゝ春ゝゝきゝ　武蔵　青洞

武蔵 梅信

蓼の花 慢〻

抱月亭主人送別の序をかりて

蓼の花よりかりて吟を生ず 酒

細長くみるみる流れまつり

武蔵 蓮笑

出羽 清秀

沖の人ゆきなくして孤舟汁

形ちとるものしきりに喰

月とも

ちく汁やかれきぶる鍋のすき

、童子

越後にくだりて

秋深のとりなきつゝ社かな 柏年

社又魚や孫兵衛ふるかなめ

出羽 彩雨

月さゝぐ勢とゝまる兎 尼

越後 右琴

遊尼やさゝつゝめてゆく月 俳諧 小年

出羽 如雲

出羽 雪堂

出羽 加業

月ゆく秋や人言まつ渾天儀

市振のうらゝかなりや月

宮月や出河岸の姫小萩文

菜畑をけして秋ひさしき雲もなし白
雲やなびくなる果て海の高
きの田や鶴ゆきしけるタ雀
笠もきて高きの山

出羽 霍公鳥
紅山 志山
下元 大城
雪の日 鶴和

多植物生類

多遠や柳の葉ふる枝小舟
ふるくとも思ふ柳ふる
日あるうへ流のまるる月明

信州 白羽
因幡 仏只
和泉 蚊方

巻山
出羽 星橋
雪の日 第一
白石 十年
紅葉 袋雪
信夫 正秀
行前 已有

梅

遠行梅まく
遠くて花の香ゆかしき
何の木ぞ春の雲ふ
日和さへ花ふる木の
白いのもおもしろの
まるに白ふ梅の
さうとも寺日のなくて
いつ来て春ある

[illegible]　　稲田　雪之

山茶花や[illegible]　　お逸　千茅

さくらんぼ[illegible]　　桃花

山茶花や[illegible]　　[illegible]　芭蕉

茶の[illegible]　　[illegible]

ちやせ花や[illegible]　　武蔵　春像

[illegible]　　出羽　稲田

下総道中

山あるき[illegible]　　[illegible]

[illegible]　　武蔵　清見

水仙やおの[illegible]　　松宜

[illegible]　　道河

[illegible]　　お逸　柳江

[illegible]　　河の宝　太樵

[illegible]　　[illegible]

[illegible]　　[illegible]

而上て春雨ふる出村の形　芦聚

長らへて世をあはれとや思ふらん　道河

蓮を出る小鴨哉すにうれしう　紙谷

蘇鉄ふるやうなる　乙良

山ゆや鴨の来るな池のあり　稿花

箱根山を踏越て

あらあらと遠鳴ふ四ふ湖水集　木仙

鎌川やあら一段瀬すさも　茶海

言かたつる法師蘇鉄　梅迂

海ひらつて風まつる雁　赤兮

ふるさとい吟来て見けるふる　二子

吟れや宮尾ふる三十三文　麦溪

鵜鶴仏さうなる蒲鉾　椋笥

見て来るの山や摩の山ふる　一仙

今叶はぬまを迷ひ芦毒集　崔叟

春ふる雨ふる雨ふる形

歳暮くさ〳〵

雪ふる中よこゝまでや年木樵　英泉（あさ）

皆梁の雪屑ふるや夕の帝　戻（坂後）

燈掃や寄舞寄せし海の函　素明（生駒上）

もち掃ふまゝに風呂のさめさゝず　越山（武蔵）

一二まん寄せの掃ひ匂ひ哉　拾布（福島）

淋しさの過ぎし日暮や寄鍋　分言

庚戌孟月末新下谷の遊子一偈拙をのうけく

顔しらぬ人も訪ひてとう春哉　米山

いつまでも仙台一年のくせ　善水

結ぶまでたゞよまぬと案ぜ哉　思楽

扨のうちに人のまゝぬうちの雪　月村

祝ひして髪あらひ迄ぬ春　雀女（光塩）

辛丑漫遊帰途のあらまし

近傾てさびしの つくひとくら　性ゐ

[illegible]　遠阿

嘉永二酉十一月於抱春亭

門つけ小ぶしあり迷や極美　巻山

雪ふり〻すさまじの市路　夫則

肌寒もつゝか荷鞍に袖ふて　遠阿

[illegible]　山

つゝみひの月の雲横ぬ月　則

[illegible]　阿

雪ふる夫とまちの凡や墳　山

初運賣餅の名をつひり　則

ふさゝんも傷てとりなを惡疫病　阿

ひとゝ毒も持し針ホや　山

さつき時ほとゝぎすの夢ぬ夢　則

ら方ぬ交る沙汰深沒　阿

賣居の屋敷のゝ[illegible]　山

ものゝ[illegible]ハ朝の禮　則

萩焼の陣屋に僅寸月足前
を言出すおけるたる藁の火
付なく同用意なる杖
きんく蛇のくふ
金利をも小貝まれ汐干潟
拾ふ足をあみ結さ
吹ふみ屏風をふ絵の帯
朋輩ふきあ

頃 山 所 何 山 所 何 山 所

不京寄ふの四五年北菩薩せ
参れ絵ふ年 振の枯ふ
遠ふふ証結合ふ文ふ
何所の年のふ幻な眉ふ
歌ふいも談ふ武ふの絵
面ふふ椿の春ふ
外結ふまふ笑ふ寸ふむ月
ふふ小蕾のめふめ

所 何 山 所 何 山 所 何

宮さまの秋の四ありて天寧寺
脊中にはかまを藝音の為つくり
鉢ハ宮さまの為に花は群とりて
仲籠におきてちうに食ひ
盛りもの寸計に餅を毒の為
別家をもうけ給へ　　志

山則阿山則阿

和學園
大短
第6355
受入
昭36 3. 14